

令和3年度 南郷里地域づくり協議会事業報告

※枠線内は、事業の実施結果

南郷里地域づくり計画に基づく事業の推進

今般、会則が改正され新しい地域づくり協議会体制が整ったことから、今まで以上に住民の方や自治会をはじめとした地域の各種団体等の参画と協働によって、地域づくり計画に掲げられた事業の推進に取り組むこととする。

1. 新たな協議会体制での円滑な組織運営を目指す

(1) 円滑な運営委員会の推進

各組織における調整と円滑な事業実施を図るために、新たに設置した運営委員会が、組織としてうまく機能し、任務が果たされるよう的確な組織運営に取り組む。

(2) 5部会制による円滑で適切な事業の実施

新たに設置した5部会が、それぞれ担当する事業の実施について、部会運営委員を中心に円滑かつ効果的な事業の推進が行えるよう組織運営をしていく。

(3) 地域活力プランナーの設置およびサポーターの支援

引き続き地域活力プランナーを受託し、計画に掲げる事業の企画運営等に取り組むとともに、引き続きサポーターの設置によるプランナー業務と本会事業への支援を得る。

- (1) 役員、正副部会長、サポーター代表および事務局員で構成する運営委員会（25人）を、毎月1回（12回）開催した。出席率は約9割。議長は会長。各部会からの報告や提案などをもとに、毎回活発な意見交換と慎重審議が行われ、所期の目的を果たすことができた。途中、運営委員からアンケートをとり、運営上の課題や対応を検討することにも努めた。
- (2) 各部会では、正副部会長を中心に、おおよそ毎月1回部会運営委員（部会メンバー）による会議が予定され、一時期コロナの関係で中断はあったものの、いずれの部会も順調に組織運営ができた。
- (3) 本年度においても18名のサポーターの設置を図り、特に危険箇所調査をしていただき、その他地協事業の推進への支援を得ることができた。

2. 部会事業の推進と要望活動（別紙付属資料）

(1) 「自治振興部会」「地域福祉部会」「くらし安全部会」「文化と健康スポーツ部会」および「広報部会」により、それぞれの担当する事業に取り組む。

(2) 実行委員会等を組織して行う事業については、時宜を得た企画と実施方法で効果ある事業の実施に取り組む。

(3) 特に自治振興部会が取り組む地域課題の把握と対応について、市行政への要望活動と併せ、地域で対応ができることは積極的にこれに取り組み、課題の解消や解決を図ることとする。

- (1) 各部会では、別紙事業報告付属資料のとおり事業に取り組んだ。ただし一部の事業については、コロナでの緊急事態宣言等により中止や延期となった。
- (2) 今年度は、文化祭を開催するにあたり実行委員会を組織した。各部会委員と公募による人材（計14人）により10回の会議を開催した。文化祭としては例年のない企画により、多くの集客（500人以上）があった。
- (3) 大きな地域課題である、バス路線長浜市内循環線の利用促進の取り組みについては、利用者が少なく市の実証運行終了が危ぶまれたが、さらなる運行延長を要望した結果、1年間の実証運行の延長が決められた。
また、小学校前歩道の改修案件への対応に取り組んだが、具体的な要望行動までには至らない結果となった。

3. 地域づくり活動の普及、啓発

- (1) 引き続き「地域づくり推進大会」を開催するなど、住民や地域団体に対して地域づくり活動への関心を高め、協議会事業への積極的な参加を促すような事業に取り組む。
- (2) 広報部会を中心に、広報紙の発行等をはじめ様々な情報発信手段に創意工夫を加え、協議会事業や地域の話題等を地域に情報提供することで、地域づくりへの関心や参加を高める。

(1) 年度内2回の推進大会を計画するものの、コロナ禍から2回とも実施できなかった。
(2) 広報部の取り組みにより、新たに広報特別号の発行や facebook 開設を行うことができ、地域情報を発信することができた。

4. まちづくりセンターの指定管理者業務の遂行

指定申請内容および年次計画に基づく管理者業務を遅滞なく推進していくこととし、特に南郷里まちづくりセンターがコミュニティセンターとしての機能が発揮でき、住民が利用しやすい施設として運営できるように取り組む。

本年度も、コロナ禍によるまん延防止や緊急事態宣言発令などがあって、センターの利用制限等に至り、住民の方が利用しにくい事態となったが、管理者側も感染対策と創意工夫を図り、できるだけコミュニティセンターとしての機能を維持するよう努めた。

5. その他

依然としてコロナ禍にあって、計画した事業の実施が心配される場合は、感染対策を万全に期したうえで、創意工夫をこらした事業の企画・実施に努めることや、場合によっては代替案を事前に提案しておくなど、地域づくりに空白や遅延が生じないよう事業推進に努める。

昨年に引き続き、本年度もコロナ禍に覆われた年度になり、計画していた事業の実施可否について迷うこともあったが、役員会や運営委員会を臨機応変に開催し適切な判断を行ってきた。やむなく中止を決定した事業もあったが、文化祭事業においては時期を延期し内容も創意工夫して開催した結果、予想以上の来場や無事故の成果を果たすことができた。